

～ All for one, One for all. ～

箴言 第一〇章 一節～三節

ソロモンの箴言。知恵ある
子は父を喜ばせ、愚かな子は
母の悲しみとなる。不義の宝
は益なく、正義は人を救い出
して、死を免れさせる。主は
正しい人を飢えさせず、悪し
き者の欲望をくじかれる。

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 156 号 —

2010 年 1 月 1 日発行



東京光の家創立 90 周年記念 愛のサウンドフェスティバル
正秋バンドチャリティーコンサートが行われました（関係者一同）。

謹
賀
新
年

あけまして

おめでとう

ございます

どちら様も平安な佳き新しい
お年をお迎えの事と存じ慶賀申
し上げます。

今年も又、特別に変わる事な
く年賀のご挨拶をさせて頂くこ
とができ幸甚に存しています。

昨年は、法人創立九〇周年に
あたり、特別な式典は致しませ
んでしたが多くの社会の皆様
のご支援のおかげで、東京光の家
の事業が永年に亘って支えられ
てくる事ができ心からの感謝を
もって旧年を送り、新しい年を
迎える事ができました。現在、
創立九〇周年記念誌の作成に取
りかかっているところです。

新年も善き施設構築にむかっ
て努力する所存です。引き続き
てご指導・鞭撻の程お願い申し
上げ、年頭のご挨拶いたします。

平成二二年 元旦

社会福祉法人 東京光の家

役・職員一同

巻頭言

福祉施設からの発信(4)

社会福祉法人東京光の家
理事長

田中亮治



新年明けましておめでとうございませう。この年も、年数回の機関誌「光の家」を皆様にお届けさせて頂きます。よろしくご指導ください。

(1) 新年を迎えて

新しい年を迎えると、やはり心が引き締まります。何の取柄もない凡人の身ではありますが、それでも「今年こそこんな事に取っかかりよう、こんな勉強をしよう、これを完成させよう、少しは人様に優しくしよう、隣人のために尽くそう」等々と密かながらも自分の心に誓うからで

す。だから、新年になると何となく緊張するのです。何十回新年を繰り返しても、同じなんですね。おかしいと言えば「おかしい」が、これが一生凡人に過ぎない者の生涯かも知れません。

私はこれまで、「福祉施設からの発信」と題し、障害者福祉施設についてまことに稚拙極まる文ならぬ文を書いてきました。もう、ここまで来てしまいましたので、あと一二度程福祉施設の事について、この誌上に書かせて頂く予定です。それもこれもすべては、今後福祉施設がどのような施策の中で、どのような社会的評価のもとで、所謂「政権交代」によって、その基本方針が大きく揺れる事のないようにと願うばかりの故にであります。

実は、私も法人傘下の二つの種別の施設が昨年三月から「障害者自立支援法」への事業移行を決め、この法律の下での運営を開始したばかりであります。従って、新規準での運営はまだ一年もたっておりません。ところが、自民党政権から民主党政権へと政権交代が成った途端に私どもの耳に入ってきた情報の一つが「障害者自立支援法の廃止」という事です。勿論これは一つの情報ですから、これがいつどのように廃止され、その後は元に戻るのか、それとも新しい法が設定されるのか私どもには皆目分かりません。従って何となく不安定な状況のままに置かれているのが現状です。

(2) それでも善き福祉施設の構築に邁進したい

では、「善き福祉施設」とはどんな施設を指すのでしょうか。十分な生活条件を満たしている設備を備えているとか、利用者が心から満足している生活実態を保障しているとか、経営が常

会報 五言

一、合法的に法の網の目をくぐり利権を漁る個人や集団が無くならない限り、世に不正も無くならない。無念。
一、如何なる団体であれ、組織であれ「間違いない」とはならない。それは、人がつくる団体・組織であり、人はすべて神に背いた罪人だから。

一、人が人を愛する。人が人に仕える程難しい事は無い。人は愛するよりも愛される事を、仕えるよりも仕えられる事を強く求めるから。

一、それでも愛なくば善き社会はなし。愛なくば善き福祉も人の倖せもなし。

一、新しい年を迎えた。どんな年になるのかは神のみぞ知る。でも希望と夢と志とをもって精一杯生きたい。

に透明で、かつ金銭的取り扱い面で一点の曇りもなく、何もかも公明正大な施設を意味するのかも知れませんが、それでは現実にはこのような施設がこの世に存在しているのでしょうか。私の個人的願望としては、当然あちらこちらに存在していると思うし、又、存在しているようであればならないと存じます。

私自身の経験では、せめて施設利用者の方々、そしてそのご家族の皆さんに「ああ、やっぱりこの施設に入所を決めた」と言われ、信頼されるような施設づくりに励み、常にそのための努力をしているのが善い施設だと思っています。新しい年を迎えて、一層その感を強くしているところでず。

話題を変えます。昨年暮れの一月のある日、都内のある大学から一人の学生が施設見学にきました。履歴書も持参してききましたので、見学の結果では就

職の面接を希望するとの事でした。ともあれ、見学の目的の一番大きなのは、利用者の表情を確認したいとの事でした。学校でよく教えられた事は、その施設の善し悪しの判断は、利用者たちの表情を見れば、おおよそ見当がつくとの事です。私もそのような着眼点をもって施設見学をされる事は、決して間違ではないと思います。

それにもう一つあります。建物の古い、新しいは別として、清掃がよく行き届いているかについて見学の大切な項目として観察するのも賢明な事かも知れませんが、その学生は、その事についても感想を述べておられました。さすが、評判の良い大学でしたので、見学者としての態度としてはとても優れていましたので、私自身評価をされている思いでしたが、悪い気はしませんでした。善い施設とは、右の二項目に合格する施設かも知れません。(続き)

自閉症スペクトラムの人々に寄せて

―特性／長所と短所―

永遠の日本社八王子集会

佐々木正美



○スペクトラムという広がり つながり

自閉症のことを、近年は自閉症スペクトラムというところえ方と言ひ方がなされるようになりました。ごく一部の人を囲い込むようにして、自閉症と考えるのではなく、広い広がりのおかげで、多くの人々との連続体としてとらえるのが適切だということです。

そのことは、従来は自閉症と無関係であったと思われる人々との間にも、さまざまなるつながりや連続性があるという考え方です。そこで学会での専門用語にも、広汎性発達障害とい

う表現が、国際的にも用いられるようになりました。

そうしますと当然ですが、自閉症の特性に強弱があることになります。そしてその傾向が強い人ほど、大きな苦勞をもっているかと思われがちですが、それが必ずしもそうではないのです。知能が高く自閉症の特性も軽いと考えられる人々が、しばしば周囲の無理解のために、幼少期から大変に苦勞の大きい日々を送っていることが、少なくないのです。

長年強い引きこもりや、不幸な非行・犯罪に陥ってしまった人のなかには、むしろ自閉症の特性は軽度で高知能の人たちが多いのです。

○発達が広く不均衡
発達障害という表現は、しばしば誤解されやすいのですが、

決して発達が単純に遅れているということではありません。広汎な領域にわたって、発達が不均衡であるというのが適切な考え方で、発達に障害が目立ち遅れが明らかになると、むしろ一般の人よりも優れているところや秀でているところも少ないのです。

自閉症スペクトラムの人たちは、情報や概念を視覚的に捉える能力は、非常に優れています。具体的な知識や、規則や法則がはつきりしていることには、幼少期から学習などに高い機能を発揮します。

しかしその反面、相手の気持ちを察したり、場の空気を読むといった、目で見て確かめることができないようなことになる、理解が悪く戸惑いながら日々を過ごしています。いわゆる想像力をはたかせなければならぬことになる、途方に暮れることになりがちです。

ですから、話し言葉を聞くこ

とよりも、文字を読むことのほうが得意だという人が多く、目で見て理解し覚えたことは、一般の人のように忘れることがないという強みをもっています。

そのため、図書館で書物を整理したり、コンピューターを操作するような動きは、非常によくできますが、接客の仕事になるとひどく戸惑うというのが普通です。

○特性への理解から支援へ

また一度に一つのこと集中して取り組むことは得意ですが、講義を聞きながらノートをとるとか、雑談をしながら食事をするといった、同時に複数のことをすることは、一般の人たちからは想像以上に困難だという人が多いのです。

しかし、このようなことを、周囲の人からよく理解されて育ってきた発達障害の人は、非常に高い能力や機能を発揮しながら社会で活躍していますが、反対に無理解な人々に取り囲まれて養育や教育を受けてきた人た

ちは、大変不幸な二次障害といわれる情緒障害に陥っていることが少なくありません。この幸・不幸の差は、決定的に大きいのです。多様な領域で一芸に秀でる人、職場で重宝がられる優れた技術者、数学や物理の研究者など、幸福な人生に出会うことができた人々も、決して少なくも珍しくもないのです。

発達障害の人たちは、特に子ども時代ほど、話し言葉は短く具体的に、さらにどうしたらいけないのかという否定的な表現ではなく、どうすればよいのかと肯定的に伝えられる環境で育てられることが非常に重要です。勿論大人になっても、周囲の人からそういう気遣いを得ながらの日々が、幸福に生きるための励ましになります。

一見したところ自由に話し言葉をもっているような人でも、多弁な人たちと交わらなければならないことは、大変な気苦労なのです。

○弱点ではなく長所を

過日テレビで、盲目のピアニスト辻井伸行さんの半生を見ました。お母さんは伸行さんと一緒に死ぬことを考えたこともあったと語っておられました。しかしこの子の弱点に気を奪われることをやめて、優れたところを伸ばしてやることを考えるようになってから、人生の展望が開けてきたと喜びを話しておられました。自閉症スペクトラムの人々の人生も、まったく同じです。発達障害の劣っているところを治そうとしても、決して治るものではありません。その人たちを苦しめるばかりです。優れているところ、しばしば見つかる非凡なところを伸ばしてやるように支援すること、それがすべてなのです。周囲の人々が多く、そのような理解や認識で、自閉症の人たちに寄り添うことができる日を待望しています。

(川崎医療福祉大学 特任教授

佐々木 正美)

各施設のトピックス

社会福祉法人東京光の家は、「安心と安全と希望」生活には喜びを」を福祉サービスの具体的な目標とし六つの基本方針を掲げています。その一つに「独自の質の高いサービスを」があります。これは、「視覚障害者の専門施設として知識と技能を磨き、創立の精神を堅く守りながら、時代の変化に柔軟に対応

し社会的ニーズに適切に応える東京光の家ならではの質の高いサービスの提供に努力すること」とあります。この基本方針に従い利用者に質の高いサービスを提供するため各施設では、利用者の特性に合わせて様々な職員研修や人材育成を行っています。今回はその取り組みについて紹介させていただきます。

指定障害者支援施設 光の家新生園

独自の質の高いサービスを目標して

新生園は、視覚に障害を持つもの及び他の障害を併せ持つ盲重複障害者を対象とし、利用者の喜びあふれる自立した生活が送れることを目的とした訓練施設です。盲重複障害者の方は視覚障害だけでなくその他多くの障害を併せ持っています。障害を併せ持つことは、一＋一＝二のような単なる足し算ではなく、四にも五にも障害の重さが増してきます。視覚障害の他に知的障害だけなのか、自閉的傾向があるのか、またてんかん発作があるのか等、併せ持つ障害が何かによって障害の重さや支援の困難さは異なってきます。

「自立の多様性」支援の専門性は障害が重度化・重複化するほど高くなってきます。そういった利用者の支援にあたっては様々な障害に対する知識や専門性が必要となります。その為新生園では開設当初から様々な外部研修会等に職員が参加しています。そして、研修参加者はただ研修を受けるだけでなく施設に戻ってから研修報告をしてもらいます。学んだことを他者に伝えることは、さらに自身を理解を深めることにつながります。また、盲重複障害の講習会は必ずしも多くありません。自閉症やてんかん等それぞれの障害について学んできた知識を参考にして自分たちの施設の利用者にあつた支援を自分たちで考えています。このように研修成果を共有し、各職員が盲重複障害者に対する支援の専門性を高める取り組みを行っています。

その他にも人材育成の一環として新任職員、中堅職員、リーダー職員とそれぞれの職員層に分けて研修を行っています。新任職員研修では、専門的な知識や援助技術だけではなく、光の家の基本精神、職員の責任や心構え等社会人としての知識を学びます。そして年間学んだ実践をまとめて研修会で発表してもらいます。また中堅職員の研修の一環として新任職員研修で講師として新人教育を行っている等、今後のリーダー層になる中堅層の育成にも取り組んでいます。

今後様々な学びを通して光の家の基本理念、基本方針になうよう、常に努力を続けていきたいと思っています。

(光の家新生園 支援課
係長 関口 仁朗)



新任職員の実践報告を中堅職員がアドバイス



一人ひとりの知識の向上に繋がっています。

指定障害者支援施設 光の家栄光園

内部研修への取り組み

「専門職として働くために」

私達一人ひとりの職員が福祉の専門職として働くと言う事は、

所属する法人の示す理念や方針、倫理綱領、行動規範などを理解する事。そして、それぞれが担当する今までの実践の積み重ねや振り返り等を通じて、様々な議論を重ね、目指すべき方向性や目標を設定し、裏付けや根拠を確認しながら、それに基づいて活動する事であると思います。

また、「知識」、「技術」、「倫理性」の維持と向上に取り組む事

が求められます。

光の家栄光園では、年度当初に職員のスキルアップを図るべく研修体制の在り方について検討しました。今までは、関連する外部研修へ参加し、その報告をコンパクトに行う形態でした。しかし、短時間でまとめて報告するだけでは、聞く方も受け身だけの研修になりがちで、充実した内容とは言えませんでした。そこで、積極的に学ぶ姿勢になれるよう、身近なテーマや、掘り下げて研修出来る内容について、「内部研修を行うこと」にしたのです。

第一回目のテーマは「点字」。

「点字、何を今更」という考えもあったかもしれませんが、しかし、栄光園は「点字出版」を仕事として取り組んでいます。また、視覚障害を有する利用者の支援を考えた時、プライバシーを守り

ながら「読む」「書く」事の出来る点字を知らなくては、支援の専門性の一つが欠けてしまいます。講師は仲間内の職員。講師となる職員は自分自身の準備も必要なため、事前の打ち合わせや確認作業を行うため、まず講師となる職員のスキルアップが図られます。また、受ける側も身近な職員のため、積極的に質問する事が出来ました。講師職員

救護施設 光の家神愛園

真剣に向き合う努力を

最近、「今のこのままで良いのだろうか」と自問自答する。日々利用者者と生活をする上で、どこか以前と違うと感ずるからである。では何が違っているのか。前施設（エレミヤ寮・モーセ寮）から引越して、現在の光の家神愛園になっ

て早一五年が経とうとしている。もちろん利用者は高齢化し重度化もして介護や介助の度合いが増えてきたことは事実である。

の熱弁、参加者からの飛び交う質問。研修会後に、個人的に確認する人。点字アレルギーを有していた人も「分かりやすかった」「もっと時間が欲しかった」等など。各々が積極的に参加できる研修会は、必ずや職員個々の資質向上、そして人材育成に繋がると手ごたえを感じています。

（光の家栄光園 就労支援課 課長 中河原 達也）

その利用者に接する我々は、利用者から見ると大部分を占める大きな環境と言わざるを得ないが、変化している利用者に対応することができているか、考えてみた。

特に最近就職してくる職員は、時代の流れもあって全真と言っている人。皆何らかの資格を持つて入ってくる。しかし現場に入れば、まず環境整備・・・掃除であるが、

箒が使えない、雑巾が絞れない。その理由は、家庭でその機会がなかったからである。小中学校では市の職員か、掃除専門の方がいるので掃除をしようという「意識を持つ事無く」過ごしてきたと言う。時代の変わり様を感じながら気を取り直し、日課や一日の流れを具体的に説明する。

神愛園は八〇名定員のワンフロア四〇名。新任の職員が就職してはぼ一ヶ月が経ち毎日書く研修日誌が終わり、利用者の名前も覚えた頃、話し合いの時間を持つ。感じた事、困った事など内容は人それぞれであるが、「必死さ・真剣さ」が伝わってこ

ないことが多い。自分の担当している居室には毎日入る。特に他からとやかく言



先輩職員を交えて意見交換

われたくない」と言う意気込みで取り組んで欲しいことを常々話をする。利用者との人間関係が作れるようにと、場面設定を行なう。一つ例にとれば敷地内の「ショップアガベ」までの買い物に同行したり、また雑談をしながら衣類整理をするよう勧めるが、話題がかみ合わず話が続かない。どうして上手く行かないのか、先輩職員も交えて意見交換をする。

利用者が安全に安心して生活をする為に、どのように気配りをするればよいか。一人ひとりの職員に問いかける。全体で出された意見をまとめ、より具体的な対策を立てて取り組んでいる。時代は資格ばかりを重んじる傾向があるような気がする。しかし私は、利用者一人一人に役立つより中身のあるものにしていく為の、真剣に向き合う努力が必要だと言いつづけて行きたい。

(光の家神愛園 指導課

係長 仙波ヤス子

八王子市立みなみの君田小学校総合学習

視覚障害ってなあに？

一〇月三日の午後、八王子市立みなみ野君田小学校の総合学習に、講師として六名の職員で出かけて来ました。「視覚障害を知る」というテーマでしたが、小学生に教えること自体が初めての経験で、手探りのまま慌ただしく準備を進めました。

四年生三クラスの児童を前に、まずは劇を交えて視覚障害についてとその援助法を説明し、次にクラス毎に歩き方や弱視の見え方の体験を行いました。

授業が始まると活発に質問が挙げられ、その勢いと、予想以上の視覚障害についての知識量に、こちらが驚かされました。

「階段の黄色いのは見えない人のため？」といった鋭い質問も飛び交い、用意した内容が簡単すぎたと嬉しい誤算でした。

知る、ということはとても大



視覚障害を知ってもらう良い機会となりました。

(光の家新生園 訓練課

大塚 清香)

光の家で活躍するボランティア

落語を通して楽しい時間の共有を

ボランティア 百瀬 省一(高座名)ふっとう亭 粋男すいおん

もともと私は、落語など洒落た笑いが好きです。ことある事にちよつとした小噺など普段の会話に交えて楽しんでいきます。

落語を始めたきっかけは、光の家栄光園の旅行に参加したときに懇親会で小噺を披露した事がありました。この時、自分ではかなり可笑しく、うけると思っていたのに、あまりうけませんでした。これは自分の話が未熟なのだなあ、噺をきちんと覚えてから披露したいなあ、あれこれ考えていたところ、NHK学園で趣味の落語講座の案内を見つけました。この時受講した仲間三人で今回、勉強した落語を披露させていただきました。

園生さん達の笑うタイミングが噺にぴったりついてきて、たくさん笑っていただきました。こちらの想いが自然に伝わって



みんなで笑い、楽しい時間を過ごせました。

食事課

おせち料理の由来

外食の増えた今の世の中で、御節料理がデパートや料亭などで購入されるケースが増えてきている中、光の家では毎年手作りの御節料理を利用者に提供しています。御節は保存がきく作り置ききの正月の料理となつていきます。これは「神様をお迎えした新年に台所を騒がせてはならない」という考えによるもので、料理の内容にもそれぞれ意味があります。鯛の焼き物は「めでたい」の語呂合わせ、鰯の焼き物は鰯が出世魚である事から出世を祈願したもの、伊達巻は巻き物に似た形から知識が増える事を願う縁起物、昆布巻きは「よろこぶ」の語呂合わせから、田作りは畑の高級肥料として鰯が使われていた事から豊作を願い食べられた、八つ頭は小辛がたくさんつく事から子孫繁栄を願って、

(食事課 調理師 横島伸二)

東京光の家の「おせち料理」



鰻姿焼き 酢ハス 黒豆 昆布巻き
数の子 田作り 紅白蒲鉾 伊達巻
寿喜羹 栗きんとん
煮物(八つ頭 こんにゃく 人参 竹の子 絹ごし)

利用者の声

二〇一〇年の抱負

二〇才の目標

光の家新生園 阿久津 恵

私は今年で二〇才になります。今、生活訓練で寝具のカバー交換と靴洗いの練習をしているので、はやく一人でできるようになりたいです。あと、歩行訓練でセブンイレブンまで歩く練習もしているので、早く修了して一人で買物ができるようになりたいです。どんな色々々なことを覚えて、友達もいっぱい作りたいです。



歩行訓練、頑張ります。

次世代に繋ぐために

光の家栄光園 中島 理一



“喜び”を持って作業しています。

私も今年は還暦を迎え、栄光園での作業のみならず、これまで色々な経験を積んできました。光の家栄光園でも、年齢の若い利用者が増え、そういった周囲の若い利用者から作業などで刺激を受けつつ、また私自身の今までの経験も伝えていければと思います。そのために今年、小さな小さな年にも楽しく、喜べるような年になりたいと思います。

日々の生活に感謝しながら

光の家神愛園 松坂 寿助



感謝の気持ちを忘れず楽しく生活しています。

昭和五〇年四月に東京光の家に入所し、今年で三四年になります。光の家で生活できるようになり私にとっては衣食住のすべてが何の不自由もなく安心して生活することができています。平成二二年で私も七二歳になりますが、光の家の友人とともにこれからも好きな俳句作りをしたり、民謡・演歌を聴いたり元気に楽しく感謝の心を忘れずに生活したいと思っています。

法人施設役員

理事長・評議員

田中 亮治

常務理事・評議員

田中 ノゾミ

理事・評議員

相澤 寛忠

亀岡 治一

菅野 秀郎

篠崎 友照

杉山 閑二

松本 栄二

監事

川又 義洋

評議員

石川 左門

石川 健太郎

岩島 清

遠藤 文子

加藤 保武

川辺 勝宣

佐下 勉

山佐 勝宣

(五十音順)

東京光の家 創立 90 周年記念 愛のサウンドフェスティバル
正秋バンドチャリティーコンサート

～ 羽 搏 こ う ～

平成21年10月31日(土)、愛のサウンドフェスティバル・正秋バンドチャリティーコンサートが日野市民会館で開催されました。東京光の家創立90周年記念コンサートということで、正秋バンドの後輩で新バンド“ひまわり”の演奏等、今回のテーマである“羽搏こう”に相応しい内容のコンサートでした。1000人ものお客様に会場いただき、盛大に行われました。



心に響くハーモニー



軽快なドラムのビート



観客を魅了する正秋さんの歌声



さらに“羽搏く”正秋バンド



正秋バンドをうまくリードしてくれた司会の高田敏江さん



新バンド“ひまわり”のさわやかな演奏



お客様でいっぱいの会場



佐々木信也さんも応援に来てくれました。

会場の皆さまからの声

愛のサウンドフェスティバル
正秋バンドチャリティーコンサート

一〇月三十一日に行われた、愛のサウンドフェスティバルは、全国的な新型インフルエンザの流行で、開催するにあたっての不安はありましたが、それを打ち消すかのように、今年もたくさんのお客様が来場され、東京光の家創立九〇周年記念にあさわしく、「羽搏こう」と題し、大盛況のうちに幕を閉じました。その会場でコンサートに対するアンケートを行い、多くの御意見を寄せていただきました。その一部をご紹介します。

●法人創立九〇周年記念企画として正秋バンドメンバー以外も参加してのご披露をさせていただきましたがいかがでしたか？
・若いエネルギー初々しいバ

ンドでこれからの成長が楽しみ。
・「ひまわり」の単独ライブをして欲しい。
・歌も演奏も素晴らしく、感動した。
・正秋バンドとお互い刺激しあっていると思う。
●今回の選曲や舞台の構成はいかがでしたか？
・変化のある構成で、楽しめた。
・飾りつけが良く、舞台が華やかだった。
・新しい曲が入り新鮮だった。
・オリジナル曲がもう少しあっても良い。
●コンサート全般のご感想をお聞かせください。
・素晴らしいコンサートで、すごく感動した（大多数）
・「羽搏こう」は、今回の演奏会にぴったりだった。
・一生懸命な姿に、元氣・勇氣・

パワーを頂いた。
・新しい企画（朗読）等、良かった。
・司会の高田さんが素敵だった。
・NHKで放送して欲しい。
・スタッフの誘導が良かった。
・会場の人達と、一緒になって歌える曲があると良い。
・とても素敵なハーモニーで、凄く凄く楽しかった。
・オリジナル曲が印象に残りました。
・ピアノ演奏も素晴らしい。
・素直な歌声が心地よく、心に響きました。
・迫力ある演奏で、驚きました。
・自然と涙が溢れてきました。
大きな感動をありがとうございました。

寄付者名簿		平成二年二月一日 ～平成二年二月三日	
沼辺民子様	米	二二 kg	
高見元晴様	大根	二 kg	
浅石常勝様	じゃがいも	二〇 kg	
石川雅也様	南瓜	一〇 kg	
上松園	米（ひとめぼれ）	三〇 kg	
萩原茂俊様	郵便葉書	二〇〇枚	
宇野佐様	じゃがいも	二〇 kg	
仁科三千代様	（馬鈴薯）		
牧洋子様	タオル	三五本	
	石鹸	七四個	
	液体石鹸		
	米（あきこまち）	二九 kg	
	果物（りんご・柿）	一三、五 kg	
	野菜（大根・ブロッコリー・しいたけ・人参・きゅうり・白菜・カリフラワー・キャベツ）	三八 kg	
柏田功様	梨	一五個	
七瀬隆幸様	みかん	一〇 kg	
赤津晃子様	美濃屋あられ一〇〇袋		
	ビスケット一六〇袋		
米澤聖一様	米	二 kg	
	味噌	一 kg	

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。



2009

東京光の家のクリスマス

二〇〇九年十二月一七日、東京光の家が創設以来、大切に守り続けてきた行事、第九一回目の光の家クリスマスが今年も盛大に行われました。

第一部「礼拝」では田中理事長による「イエスキリストの御誕生と東京光の家の創立（誕生）」と題した記念講演が行われました。東京光の家の創立者秋元梅吉が盲人としての苦難の人生始



第一部「礼拝」にて記念講演をされる田中理事長

まりが、聖書の福音との出会いに繋がり、そして光の家創立に至ったこと。信仰がなければ光の家は存在せず、神の御降誕と光の家の創立が重なっていることを改めて確信する内容でした。

第二部「祝会」は、心に響く聖歌隊の発表で幕開け。そして、光の家栄光園の園生有志による劇「パウロの回心」は、パウロが今までの生き方を悔い改め、イエスこそが真の救い主であることを回心する内容でクリスマスに相応しいものでした。第三部「会食」は光の家の食事課が心を込めて作ったクリスマスメニューを楽しむことができました。

今年も喜びと感謝の気持ちに満ちた光の家のクリスマスが、限らない神の愛に支えられ、終えることができました。

（合同行事委員 廣瀬千佳子）

視覚障害者ガイドヘルパー講習 受講案内（東京都指定研修）

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

〔日時〕平成 22 年 2 月 6 日（土）、7 日（日）

〔場所〕東京光の家 地域交流センター 研修室他

〔費用〕15,000 円～17,000 円

〔定員〕20 名 ※定員になり次第メ切

〔研修修了者〕研修終了後、東京都認定の視覚障害者移動介護従業者養成研修修了証明書を交付します。



くあとかきく

○師走に入り、一年が、あっという間に過ぎてしまいました。北海道の遠方より便りがあり、高齢の方にとっては雪掻の作業は大変な様子。暖房器具による火災頻発。高齢者が事故にあう報道がとみに目立ちます。

○長かった自民党政権から民主党政権へと移りました。総選挙による国民からの負託にしっかりとこたえてほしいのですが、どうでしょうか。

○世の中不況の波が、私ども福祉の世界にもあらわれているようです。当法人「マッサージホーム」のお客さんがかなり減少しつつあるのもその現れの一つでしょうか？

○新型インフルエンザ、まだまだ猛威をふるっている様子。どちら様も呉々もご自愛の程お祈りいたします。

○皆様にとって佳きお年でありますように。
（N・T）

発

発行 千九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二（五八）二三四〇
FAX 〇四二（五八）九五六八